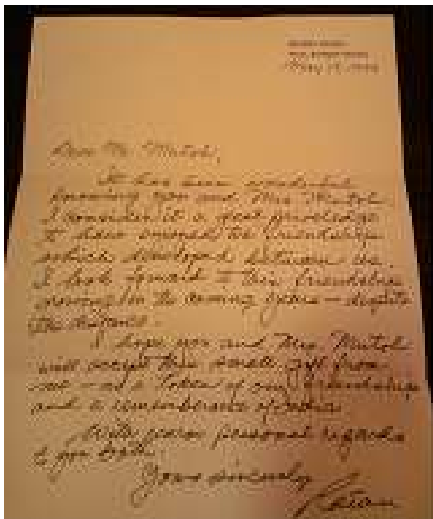


週刊 座、グレート・リーダーズ通信

『インド私録-思い切り取り組んだこの 50 年-』 No.22

今週のキーワード！ ラタン・タタ氏
君子の交わり

『インド私録』は、武藤氏が付き合い合った綺羅星のごとき著名人の知られざるユニークなエピソードが魅力の 1 つとなっていますが、武藤氏とそれらの人々との関係が、ほどよい距離感で保たれていること、そこに伺える「君子の交わり」とでもいうような関係に爽快感を感じることも見逃せない魅力となっています。



武藤氏がボンベイ総領事の任を終えて帰国する際にラタン・タタ氏から贈られた親書(上)と、記念の銀器(下)。書状には、二人の友情をこれからも発展させていきたいと書かれている。右上には「BOMBAY HOUSE, FORT, BOMBAY 400 001」とタイプされ、「MAY 19, 1993」以下直筆が続く。末尾には「Ratan」の署名。銀器は英領時代の 1 ルピー硬貨が埋め込まれている。
(武藤氏所蔵品・写真インド総研)

「利害関係がないので今にいたるまで長く続いている」と武藤氏が語る、タタ財閥の総帥、ラタン・タタ氏との関係はまさにそうしたものであると思われる。

タタ氏との出会いは、『インド私録』で紹介されているとおり、1989 年にボンベイ総領事に着任した武藤氏が、自ら表敬訪問したことに始まります。それ以後、武藤氏は任期の 3 年半にわたって 3 カ月に 1 回の訪問を続けました。武藤氏によれば、それは専らインドの政治・経済に関するタタ氏の見解を聞く機会であって、タタの内情に立ち入ったり、利害関係が生ずる話題には一切触れなかったとのこと。

タタ氏は、武藤氏のボンベイ総領事の任を終えて帰国する際、「これまで培ってきた友情をこれからも発展させていきたい」と認めた書状と記念品(写真参照)を贈っています。

その友情とは、決して狎れ合うことなく、共通の関心事であるインドの政治・経済を語り合うなかで、互いに互いを認め合った種類のもではなかったかと想像します。

こぼれ話

もう時効、酩酊のジャガー

ジャガーのホームページに掲載されている・タタ氏のインタビューによれば、2008 年にジャガー&ランドロ

ーバー(JLR)を買収した動機について、銀行から JLR を買わないかという話があったことと、国内スポーツ・ユーティリティ・ビークル(SUV)市場で 2 位に甘んじているタタ・モーターズにとって、「ランド・ローバー」取得は絶好の機会と考えたという、2 つを挙げています。

このインタビューで、タタ氏は、父、ナバル・タタ氏が 1940 年代に所有していた「ジャガー XK120」について、そのインパネの美しさを今も思い出すと語っており、それからすれば、自身がジャガー・ファンであったことも、JLR 買収の密かな動機としてあったかもしれません。

実はジャガーについては、武藤氏のこんな話があります。知り合ってから 2 年くらいたった頃、タタ氏のたつての望みで、氏と氏の 2 人の妹を総領事公邸の夕食に招いたところ、タタ氏は真っ赤なジャガーのスポーツカーを自ら運転して現れたとのこと。

なお、その日來客の 3 人は、武藤氏と大いに酒を酌み交わし、タタ氏は武藤氏が公邸の車で送るという申し出を断り、酩酊のまま運転して帰っていったとのこと。「いやあ、あの後事故でも起こされたら、日本の総領事が酒を飲ましてなんてねえ、大変なことになっていましたよ」と武藤氏。

第 24 回放送は今宵。

